

事業報告書（ふじみ苑）

項 目	内 容
指定管理者名	社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会
団体の概要	<p>□所在地 新潟市中央区八千代1丁目3番1号</p> <p>□代表者 会長 関 昭一</p> <p>□職員数 役員 1人 正職員 226人 非常勤・臨時・パート職員 1,542人</p> <p>□設立年月日 昭和31年3月29日</p> <p>□主な業務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域・在宅福祉活動の推進（友愛訪問事業など） ○ボランティア活動の振興（ボランティア団体への支援など） ○情報・相談及び広報活動の推進（心配ごと相談所など） ○資金の貸付（生活福祉資金など） ○介護保険事業（訪問介護サービス事業など） ○障がい者自立支援事業（障がい者居宅介護サービス事業など） ○イベント（障がい者大運動会など） ○各種福祉事業（ひまわりクラブの管理運営など）
基本方針	<p>母子生活支援施設には、DV被害を受けた利用者をはじめ、多くの課題を抱えた母子が入所しています。入所から退所後の地域での生活を含め、長期にわたり母子を総合的に支援できるよう、利用者である母親の立場を尊重し、信頼関係を構築し、ともに課題を解決していく視点を持ったうえで、子育て、生活支援、就労支援などを含めた支援を行いました。</p>

<p>運営組織</p>	<p>□職員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長 1名 ・母子指導員 3名 ・少年指導員 2名 ・嘱託医 1名 <p>□職員の資質向上, 育成について</p> <p>下記研修に積極的に参加し, 直近の職員会議で報告することで施設内研修を行いました。受講機会が均等になるよう配慮しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県社会福祉協議会職員研修 4研修 述べ4名 ・新潟県主催の研修 (DV 関係・児童関係) 4研修 述べ5名 ・新潟市児童相談所主催の研修 1研修 2名 ・母子生活支援施設協議会の研修 3研修 述べ7名 ・その他 2研修 述べ2名
<p>運 営</p>	<p>□利用者の日常生活支援について</p> <p>母親の状況に合わせ, 関係機関との連携を綿密にとり, 協力を得ながら支援を行いました。また, 近年増加傾向にある外国籍の母親に対しては, 言葉や生活習慣, 文化の違いに理解を示しながら, 入所者間のコミュニケーションや日本での子育てに対する不安やストレスが解消できるよう心がけました。</p> <p>未就学児については, 保育園への正式入園が困難な状況があるため, 緊急一時保育利用の情報提供や必要に応じた施設内での補助保育の実施により, 母親の生活を支援しました。</p> <p>□利用者の自立促進</p> <p>各世帯がまず取り組むべきことと, 中長期的な目標とを明確にした自立支援計画の策定を行い, それに沿った支援を行うことで, 入所者一人ひとりが日々の目標を持ちながら生活し, 問題をひとつずつクリアして自立を目指すことができるよう個別配慮に努め, 支援しました。</p> <p>また, 退所後の児童の受け入れや母親の相談に積極的に応じるなどし, 退所後の母子が精神的に安定し, 自立意欲の高い状態を保てるよう支援のネットワーク作りにも心がけ, 支援を行いました。</p>

○児童の健全育成

登下校（園）時や下校後の学童保育での関わりを大切にし、日々の体調や心の変化を注意深く観察しました。要望に応じ、子どもへの学習支援や母親との相談の場を設けるよう努めました。また、転入直後の不安定な児童に対しては特に、学校との情報の共有を綿密に図り、新しい環境に対応できるよう支援しました。

○母親の支援

就労収入を得ることが経済的自立、ひいては精神的な自立・自信へと繋がることや、子ども達の成長や発達にも大きな影響を与えるものと考え、インターネット検索等で随時ハローワーク情報を取り寄せたり、社会資源活用の情報提供を行うなどし、母親自身が就労意欲を持てるよう、粘り強く支援することを心がけました。

また、社会経験が乏しくあらゆることに不安を持ち混乱してしまう母親に対しては、職員と一緒に考え、整理し、答えを見つけてゆくという共同作業を行うことで、自身を持ってもらえるよう支援を行いました。

○生活の安定・向上

入所世帯の抱える問題は、多様化・複雑化・長期化する傾向が見られるため、それらを受け入れ、母親の安定を図りながら、それぞれの家庭が自立に向かうことができるよう、寄り添い、共に考える姿勢を大切に支援を行いました。

○よりよい生活環境の提供

施設での生活には集団生活の中に個々の生活の場があることを常に念頭に置き、安心と癒しを感じられる雰囲気づくりと、人権とプライバシーへの配慮を心がけました。また、母親が喫煙している世帯については母子の健康への影響が心配されるため、ポスターを掲示するなどして啓発を行いました。

<p>危機管理</p>	<p>□事故防止，防災に対する考え方と対処方法</p> <p>不意の事故や災害の発生に備え，常に危機意識を持って，入所者の安全確保に万全を期せるよう，災害を想定した避難訓練を毎月実施しました。</p> <p>□事故，災害，緊急時の対応及び体制</p> <p>「怪我等の事故が発生した場合」「不審者侵入時」「火災発生時」「自然災害発生時」「感染症発生時」を想定した危機管理マニュアルを備え，職員に周知徹底しました。また，ヒヤリ・ハット事例が発生した際には，その都度，職員間で情報の共有を行いました。</p> <p>□個人情報保護の方針及び方法</p> <p>社会福祉法人新潟市社会福祉協議会の個人情報保護方針に基づき，保護に努めました。</p>
<p>施設維持管理</p>	<p>□施設管理</p> <p>施設内外の環境美化に努め，施設が生活の場として快適なものとなるよう配慮しました。</p> <p>□環境への配慮</p> <p>「にいがた環境行動プラン」に基づき，環境保全への取り組みを実践しました。また，施設の入所者等に対する環境の保全に関する情報提供や，職員に対する研修及び自己啓発の推進にも努めました。</p> <p>□経費節減への取り組み</p> <p>紙類使用量の減量化や不要用紙の裏面利用，封筒の再利用等により，事務消耗品の節約に努めました。また，冷暖房温度の配慮や不要な箇所の消灯を心がける等，電気・ガス・水道などの使用量の削減に向けた取り組みを実践しました。</p>